

『大学生のキャリア意識調査2007』

キャリア形成活動・将来設計・就職意識を探る 《参考資料:アルバイトはキャリア形成に役立たない?!》

(財)電通育英会(東京都中央区, 理事長:松本宏)は、京都大学高等教育研究開発推進センター(センター長:田中毎実)と共同で、2007年11月、全国の大学1年生と3年生を対象に、インターネット調査によるアンケート調査を実施しました。

この調査は、大学1年生・3年生の大学生生活実態ならびに意識と行動を探るとともに、授業及び授業以外の活動の何が大学生のキャリア形成活動・将来設計・就職に対して影響しているのか、を把握する目的で実施いたしました。同時に、当財団の奨学事業の参考とするために、大学生の奨学状況についても調査いたしました。

なお、今回の2007年調査活動を第1回と位置付け、今後とも継続的に実施する予定で、大学生の意識と行動、キャリア形成活動や将来設計と行動との関係のデータを積み重ね、随時、大学生のキャリア形成活動・将来設計等を研究されている大学関係者並びに研究者に提供してまいります。

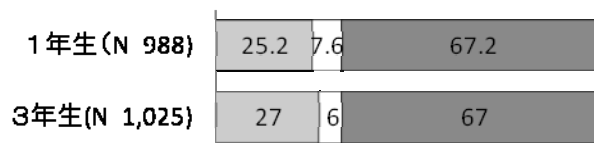
今回の調査に当たり、調査設計・アドバイザーとして京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授溝上慎一氏に、また、調査解析には福島大学人間発達文化学類・准教授 中間玲子氏に参画いただきました。

調査概要

実施期日 2007年11月8日～11月14日(7日間)
実施方法 インターネット調査
回答者数 大学1年生 988名、大学3年生 1,025名

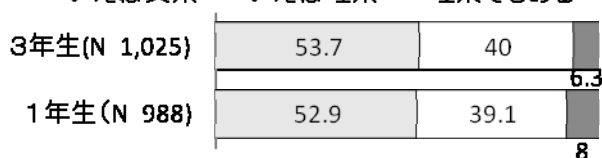
学年別国公立私立大学比率

■ 国立 □ 公立 ■ 私立



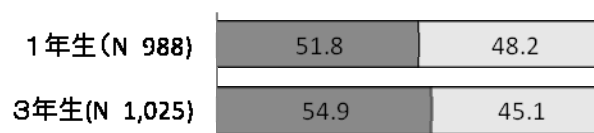
学年別文・理系比率

□ どちらかといえば文系 □ どちらかといえば理系 ■ 文系でもあり理系でもある



学年別男女比率

■ 男性 □ 女性



実りある学生生活をサポートします

《参考資料》アルバイトはキャリア形成に役立たない?!

いま多くの大学では、大学生のキャリア意識の育成や、汎用的技能を身につけるために、授業、授業外を問わず演習参加型の授業*1や、社会経験のためのボランティア、インターンシップ*2などを取り入れています。

それらは大学での学びの動機づけとともに、コミュニケーション力、協調性や忍耐力といった社会人基礎力の育成、さらにはリーダーシップや起業家精神など、包括的な人間力の育成を目指したものです。また、大学生の多くは何らかのアルバイトをしています、これも貴重な社会経験の一つと言われてきました。

そこで電通有英会では、今回の「大学生のキャリア意識調査2007」のデータから、キャリア形成に深くかかわると考えられる「大学入学後のボランティア活動への参加」、「入学後に経験したインターンシップ」、さらに「参加型の授業/演習」と、「アルバイト(塾・家庭教師とそれ以外)」について、社会人基礎力をはじめとする項目で、経験者と未経験者の間に差が生じるかを比較しました。

*1 演習参加型の授業・・・課題解決型のグループ学習で、学生相互に検証させて一定の方向に導き、さらに結果をまとめ、発表することで能力形成を図る。

*2 インターンシップ・・・学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度。

平均点の差でその効果を判定

「リーダーシップ力」、「コミュニケーション能力」など13項目の回答によりそれぞれ1～4点が与えられます。「ボランティア」や「インターンシップ」、「参加型授業」、さらには「アルバイト」の経験者と未経験者の平均点数の差を次ページ以降に図示しました。なお、今回の分析に使用した各行動の参加経験率は下表の通りです。

平均点は1%危険率で有意差検定を行い、経験者と未経験者の平均点に有意差のある項目は、その差の値によって0.5以上から、0.09以下まで6段階で示しました。

参加率

	1年生	3年生
入学後のボランティア	28%	33%
入学後のインターンシップ	13%	27%
参加型の授業・演習	79%	85%
塾・家庭教師のアルバイト	22%	23%
塾・家庭教師以外のアルバイト	54%	62%

結論

1. 授業・授業以外を問わず、「ボランティア」や「インターンシップ」、多くの大学で導入が進んでいる「参加型の授業/演習」への大学入学後の参加経験は、最近の大学生に欠けていると言われている「リーダーシップ能力」や「プレゼンテーション能力」、「コミュニケーション能力」など、キャリア形成に役立つ能力の獲得に大きな効果が認められました。
2. 塾や家庭教師のアルバイト、あるいはそれ以外のアルバイトは、大学生にとって社会経験の場と考えられているが、「ボランティア」や「インターンシップ」、「参加型の授業/演習」の場合に比べ、経験者と未経験者の間のポイントの差は小さく、キャリア形成に役立つ能力の獲得にはあまり貢献していないことがわかりました。
3. 1年生は「大学入学後のインターンシップ」の参加が、3年生では「参加型授業/演習」の受講が、キャリア形成に役立つ能力の取得に大きく貢献していることがわかりました。

キャリア形成に役立つ能力、汎用的技能の獲得は、アルバイト経験の有無より、授業での「インターンシップ」や「参加型の授業/演習」への参加が大きく役立つ。

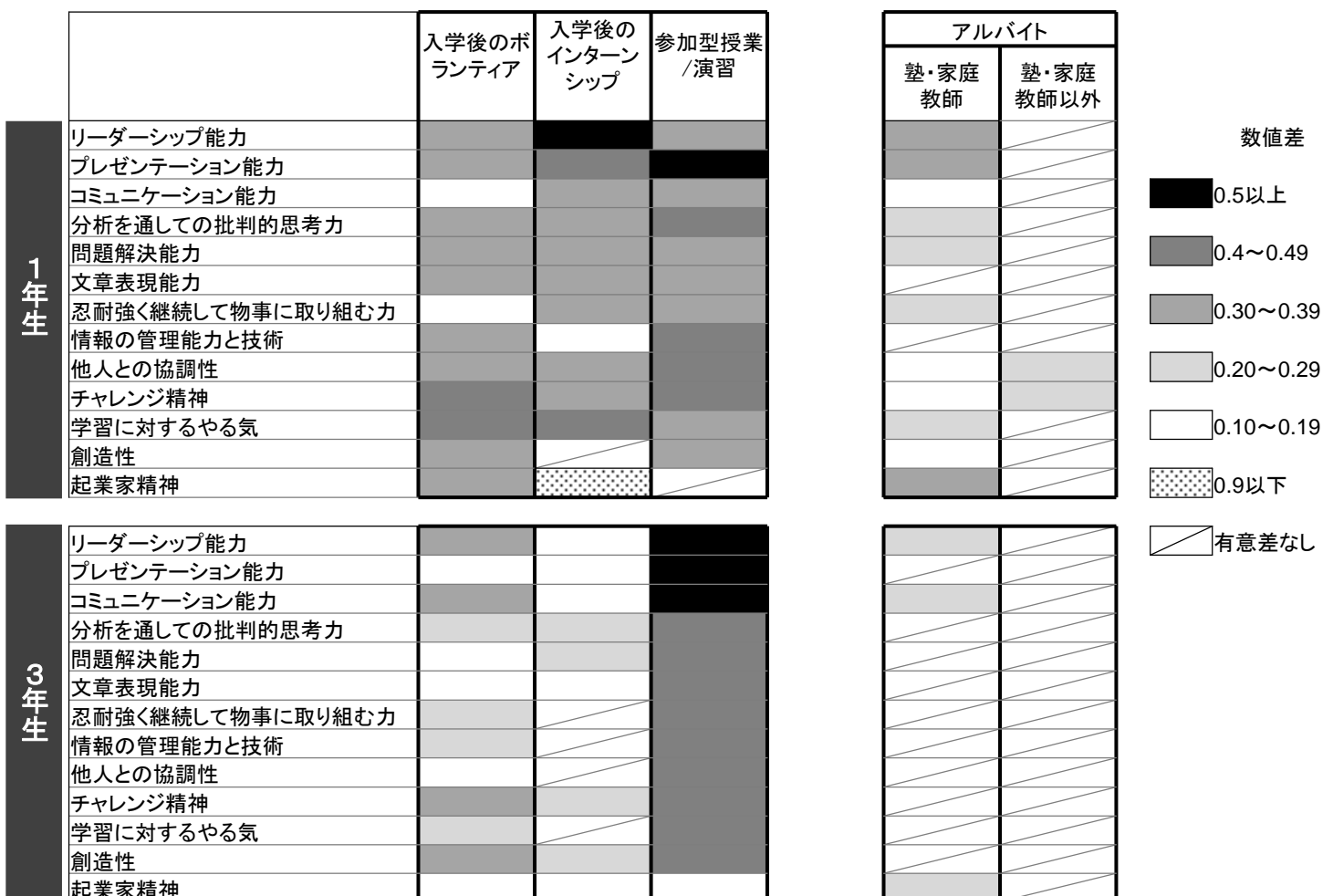
大学生がキャリア形成に役立つ能力や汎用的技能を獲得できるのはいつか、授業の「ボランティア」、「インターンシップ」の参加者と非参加者、「参加型事業/演習」などの受講者と未受講者の能力取得度の違いをポイント差で見ました。その結果を、大学生にとっての社会経験の一つであるアルバイト経験の有無のポイント差と比べてみました。

下の表のポイント差を表す色の濃淡で明らかなように、アルバイトの場合と比べて、「ボランティア」、「インターンシップ」、「参加型事業/演習」では、各項目ともにポイント差が大きく、これらに経験することで能力の取得傾向が高いことがわかります。一方、アルバイトでは経験の有無で大きな差がなく、能力の獲得に大きな影響を与えていないという結果が得られました。

1年生は「ボランティア」、「インターンシップ」、「参加型事業/演習」の3つが、3年生は「参加型事業/演習」が、キャリア形成に役立つ能力の取得に役立っていることがわかります。3年生で経験者と未経験者で能力所得に大きな開きが見られたのは「リーダーシップ力」、「プレゼンテーション能力」、「コミュニケーション能力」などでした。

授業行動で、キャリア形成に役立つ汎用的技能の獲得傾向(1%危険率)

(「経験あり」の平均値)－(「経験なし」の平均値)の数値差で、1%危険率で有意差ありのみを6段階で色表示。



授業以外でも、1年生「インターンシップ」、3年生「参加型授業/演習」の参加経験が、キャリア形成に役立つ能力取得に貢献。いずれもアルバイト経験を上回るポイント差。

授業以外の「入学後のボランティア」、「入学後のインターンシップ」、「参加型授業/演習」でも、参加者と未参加者では、キャリア形成に役立つ能力獲得のポイント差は大きくなっています。

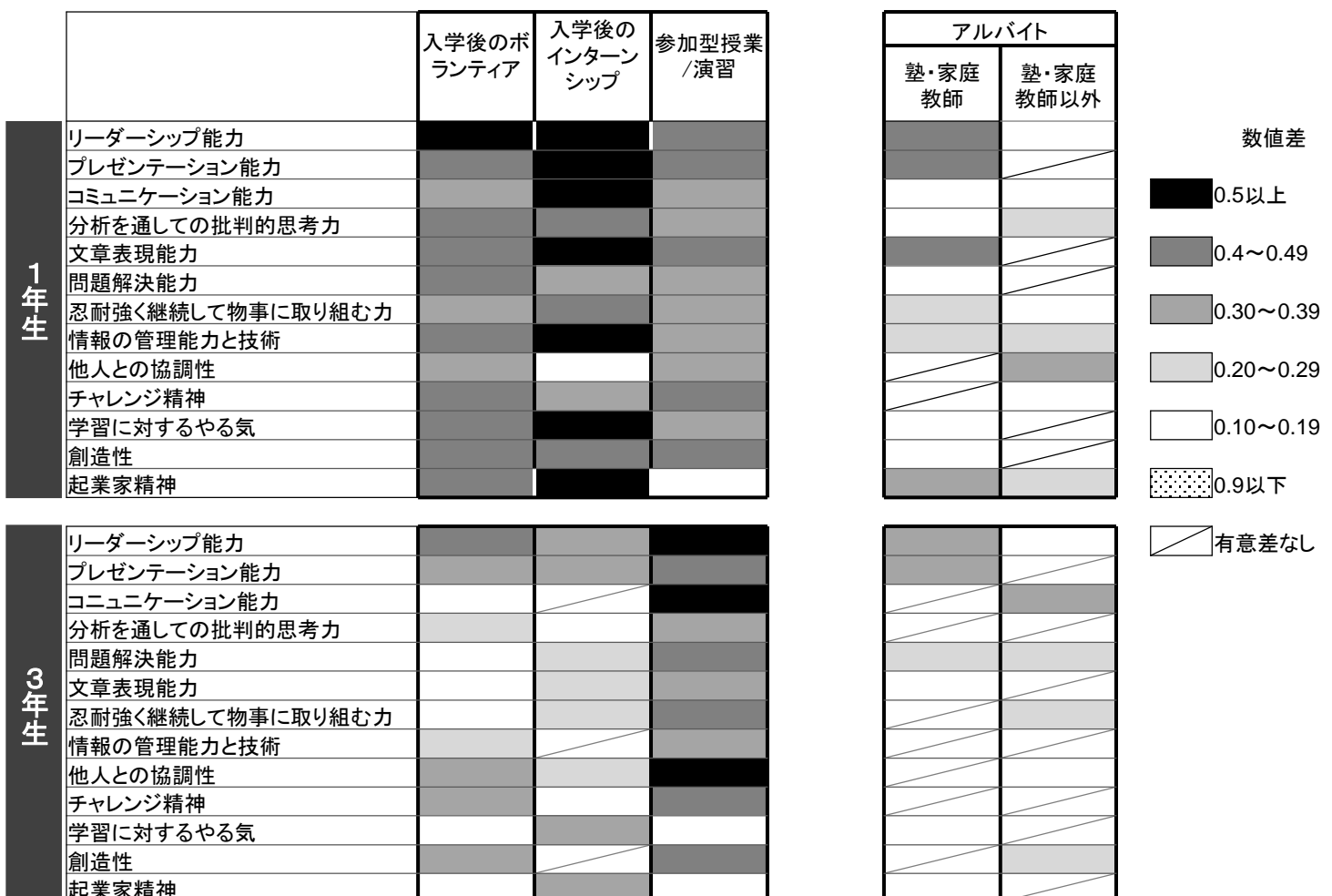
1年生の場合は「入学後のインターンシップ」でその傾向が明確に出ており、0.5ポイント以上の差が13項目中、7項目に達しています。また、3年生では「参加型授業/演習」で0.4ポイント以上差のある項目が8項目もあります。

ここでも、獲得した能力の「リーダーシップ力」、「プレゼンテーション能力」、「コミュニケーション能力」が経験・未経験で大きな差があり、1年生では、「入学後のインターンシップ」で、「情報の管理能力や技術」、「文章表現能力」、「学習に対するやる気」、「起業家精神」などで大きな差がついています。

3年生の場合は「他人との協調性」で1年生に比べてポイント差が大きく、成長の跡がうかがえます

授業以外の行動で、キャリア形成に役立つ汎用的技能の獲得傾向(1%危険率)

(「経験あり」の平均値) - (「経験なし」の平均値)の数値差で、1%危険率で有意差ありのみを6段階で色表示。



調査結果について

京都大学高等教育研究開発推進センター

准教授 溝上 慎一



一昔前はアルバイトが学生にとって社会勉強になり、卒業後働く上での技能を磨くと考えられていた。しかしながら、本調査の分析によると、キャリア形成に役立つ能力や汎用的技能の獲得に対するアルバイトの効果は、インターンシップやボランティア、参加型授業に比べると弱いという結果であった。

その理由としては、アルバイトの多くがマニュアルに沿った形式的な作業になってきていることが考えられるし、一昔前と違って、インターンシップや参加型授業といったキャリア形成に役立つ能力や汎用的技能を磨くことに直結する場が増えてきている事情も考慮されねばならない。相対的に、学生の多くはインターンシップや参加型授業がアルバイトよりも、より自己を成長させる場だと感じているのかもしれない。

ちなみに、最新の大規模な2つの大学生調査結果(東京大学・金子元久代表／上智大学・武内清代表)はそろって、最近の学生はクラブ・サークルの時間よりもアルバイトに多くの時間を費やしている傾向を指摘している(『IDE現代の高等教育』No.498、2008年2-3月号)。

経済的な問題を抱えてアルバイトをする場合は別として、単なる小遣い稼ぎ以上の意味がアルバイトにあるのか、今後議論すべき点かもしれない。

溝上 慎一(みぞかみ しんいち)氏 プロフィール

1970年生まれ。1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手・講師を経て、2003年より現職。主な著書に『現代大学生論』(NHKブックス)、『大学生の学び・入門ー大学での勉強は役に立つ!』(有斐閣アルマ)、『大学生の自己と生き方』(ナカニシヤ出版)、『対話的自己』(翻訳書、新曜社)など。